

國學院大學學術情報リポジトリ

2021年度国際研究フォーラム「日本の宗教文化を撮る」報告書

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-21 キーワード (Ja): NDC8:161.3 キーワード (En): 作成者: 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001631

仏像の3D計測と「お身代わり仏像」 —仏像盗難と地域社会の現在—

大河内 智之
(奈良大学准教授)

はじめに

和歌山県立博物館では、平成22年（2010）より文化財の3Dスキャナーによる計測（＝撮影）と3Dプリンターによる造形化を、和歌山県立和歌山工業高等学校と連携し、継続して行っている。その目的は二つある。一つはさわれる資料による展示のユニバーサルデザイン化であり、もう一つは複製を活用した文化財の盗難防止対策である。本報告では二つ目の目的である盗難防止のための活用のあり方について紹介し、計測（＝撮影）データの活用による地域社会への学術の貢献のあり方についての事例として共有することとしたい。

1 多発する仏像盗難被害とその構造

今、全国で、仏像など寺社に所蔵される文化財の盗難被害が多発している。施錠された収蔵庫から重要文化財が盗まれたという犯行例もあるが、より深刻な問題は、被害の中心となっているのがそうした著名な指定文化財ではなく、集落ごとにひっそりと祀られてきた仏像であるということにある。

盗難被害発生の要因（盗む側・盗まれる側）としては、大きく次の2つが考えられる。

- ① 需要の拡大（仏像愛好の広がり、古美術市場の広がり活性化）と、それに伴う卑劣な犯罪者の出現。
- ② 人口減少、高齢化によるコミュニティの縮小に伴う管理体制の弱体化による犯罪抑止力の低下。

このように現在は、需要の高まりによる換金目的の犯罪者の誘発と、地域の構造的問題による犯罪の抑止力の低下が、不幸にも一致してしまっている時代であるといえる。特に地域の寺社をとりまく構造的な問題は今後さらに深刻化していくことが予想される。

2 和歌山県における仏像盗難被害

和歌山県では平成22年（2010）春ごろから翌年4月にかけて、連続60件、仏像172体を始めとする文化財の盗難事件が発生した。被害に気づいていない事例もあると想定されるので、その数はさらに多かったとみられる。被害に遭った場所のほとんどは、地域住民によって管理される無人の寺（堂）や神社（小祠）であった。

平成23年4月、犯人が逮捕された。住所不定で車中泊をしていた男で、日中に下見をし、夜中に犯行に及び、大阪の古物商に持ち込み続けていた。文化財に対する知識はなく、手当たり次第の犯行であった。買い取っていた古物商は共犯関係にはなかったが、結果的に犯罪を拡大させた張本人といえる。古物商の手元にあった転売前の文化財については警察が回収し、捜査の進展の結果、元の所蔵者が判明したものは返されたが、被害地域の多くは文化財の写真やデータもなく、最終的に43点が所蔵者不明のまま取り残され、その後和歌山県立博物館で引き取り管理し、4点については博物館で所蔵者を見つけて返却できた。ほか、のちに古美術商のカタログに掲載された被害品（紀の川市・円福寺の仏像）を発見し、買い戻したのも一部あるが、多くは行方不明のままとなっている。

平成28年から再び増加傾向となり、29年・30年にかけて、和歌山市・岩出市・紀の川市の10か所の寺院で60点以上の文化財が盗まれている。30年3月に盗まれた紀の川市・西山観音堂の十一面観音立像（紀の川市指定文化財）は像高182.4cmの平安時代後期の仏像である。こんなに大きな仏像でさえ被害に遭っているのが現状である（図1）。

被害後、NHKによる被害状況の報道（6月1日）の際に本像の画像が示されたが、直後に転売先が判明し警察によって回収された。また、同じころに盗まれた岩出市内の寺院の本尊像が、6月にインターネット上のオークションサイトに出品されているのを筆者が見つけ、ただちに警察へ通報し、回収に結びつけることもできている。ほか、警察の尽力により回収された仏像もあるが、多くは取り戻せていない状況である。

仏像や神像は、信仰の核として、また精神的紐帯として長く継承されやすく、地域の歴史を物語る重要な資料といえる。仏像を奪い去る行為は、地域や人々の歴史と尊厳をも奪い去る卑劣な犯罪である。地域のシンボルともいべき仏像の盗難被害は、物的な被害に留まらず、喪失感や自責の念など、所蔵者や地域住民の心にもダメージを負わせる。このような物的・精神的な二重の被害にあわないためには、とにかく盗まれないための対策をただちに講じていく必要がある。文化財に関心をもち、写真撮影、寸法等データの把握を行った上で、厳重な施錠、防犯用ライトやベルの設置等々、防犯体制の構築が望まれるが、そうした対策さえ難しい地域が増えている。誰もが当事者として文化財を守る方法を、生み出していかなければならない。



図1 盗難被害を受けた西山観音堂

3 文化財の複製を活用した文化財の保全と信仰環境の維持

地域の中で守られ伝えられてきた文化財は、地域とのつながりを失うことなく、そのままの環境で維持・管理されていくことが最善であるが、防犯・防災の観点からやむを得ず他所に移さざるをえない事例があり、博物館はそうした場合の移動先として資料の寄託を受けてきた。ただし仏像等を移すことは信仰環境が大きく変容することであり、心理的なハードルは大きい。

和歌山県立博物館では平成22年度より、県立和歌山工業高等学校と連携し、視覚障害者の学習支援のため、3Dプリンターによるさわれる文化財レプリカを作成しているが、この文化財レプリカを、防犯環境の整わない寺院や神社に安置し、盗難被害防止につなげる活用を平成24年度から継続して行っている。製作の工程は次のとおりである。

- ①3Dスキャナーを用いて資料を様々な角度から非接触で計測（撮影）し、3Dデータを作成する（図2）。
- ②CADを用いて、必要に応じて3Dデータに修正を施して完成させる（図3）。
- ③完成した3Dデータを3Dプリンターに入力し、ABS樹脂やASA樹脂等（プラス



図2 3Dスキャナーによる計測作業



図3 CADソフトによる3Dデータの調整作業

チック)で出力。

- ④出力したパーツを組み合わせ、サンドペーパー等で磨いて下地処理を施す。
- ⑤レプリカの表面を、和歌山大学学生がアクリル絵の具で着色して完成 (図4)。



図4 着色作業

製作に当たっては、資料の取り扱いは学芸員が行い、データ計測やデータ修正などは高校生との共同作業となる。担当教員と技術面での事前事後の検討や、教育面での目標設定、授業進行の調整など、相談を行いながら実施し、学校のカリキュラムに組み込むことができていることが、継続の上で重要な要素となっている。

こうした作業を経て、これまでに製作した複製仏像・神像の安置先は次のとおりである (令和4年11月段階。安置済みは15ヶ所、29体)。

表1 複製仏像・神像一覧

平成 24 年度	紀の川市	林ヶ峰観音堂	1 体	菩薩形坐像（平安時代）
	紀の川市	中津川行者堂	3 体	役行者及び前後鬼像（室町時代）
	田辺市	滝尻王子宮十郷神社	1 体	滝尻金剛童子立像（平安時代）
	有田川町	某神社	1 体	女神坐像（平安時代）
平成 25 年度	かつらぎ町	三谷薬師堂	10 体	女神坐像・男神坐像（平安時代）
平成 26 年度	紀の川市	円福寺	1 体	愛染明王立像（江戸時代）
平成 27 年度	紀の川市	薬師寺	1 体	薬師如来坐像（平安時代）
	海南市	海雲寺	1 体	釈迦如来坐像（南北朝時代）
平成 28 年度	紀の川市	横谷区茶所	1 体	仏頭（平安時代）
	高野町	花坂観音堂	1 体	阿弥陀如来坐像（平安時代）
平成 29 年度	有田川町	下湯川観音堂	1 体	観音菩薩立像（平安時代）
	すさみ町	持宝寺	3 体	阿弥陀三尊像（南北朝時代）
平成 30 年度	田辺市	観音寺	1 体	観音菩薩立像（平安時代）
令和元年度	九度山町	慎尾山明神社	2 体	高野明神立像・白鬚明神坐像（平安時代）
	紀の川市	大国主神社	1 体	権大明神立像（江戸時代）
令和 3 年度	海南市	大崎観音堂	1 体	宝冠釈迦如来坐像（室町時代）
	高野町	大滝丹生神社	2 体	丹生明神・高野明神坐像（南北朝～室町）
令和 4 年度	かつらぎ町	極楽寺	1 体	菩薩半跏像（飛鳥時代）※重要文化財

なお、こうして製作した文化財の複製は、「はじめに」にもふれたようにさわれる文化財レプリカとして和歌山県立博物館内に設置し活用している。視覚に障害のある方への情報提供の効果的な方法として、またあらゆる利用者がより楽しくより深く情報を得るためのツールとして利用するもので、博物館展示のユニバーサルデザイン化の特徴的なあり方を示すものとして、平成26年度内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰内閣総理大臣表彰を受賞している。

4 「お身代わり仏像」による信仰環境の維持—撮影・造像・投影—

仏像・神像の複製を提供し、安置するにあたっては、「信仰の対象が複製でいいのか」という声（あるいは内心の思い）が上がるのが想定された。ただ実際に提供してみると、地域住民から「夜も安心して寝られる」といった感想をいただくなど好意的で、複製を拒絶する声は当事者からは意外なほど聞こえてこず、「お身代わり」という呼び方で受け入れられている。それだけ当事者にとって深刻な問題であったということであるが、それとともに、制作に携わった県立和歌山工業高等学校の生徒や和歌山

大学学生が現地を訪れ、地域住民と実際に会って、コミュニケーションを図り、その上で複製を奉納する取り組みも行っていることも特記したい(図5)。地域住民が生徒・学生に製作に際しての苦勞を尋ねたり、あるいはねぎらいの言葉をかけるなどする中で、それが単なるレプリカではなく、訪れた高校生・大学生が当該地区のために作った仏像であるという固有の「物語」が付随していることを実感し、受け入れへの心理的なハードルを下げる効果が得られている。高校生・大学生にとっても、現地の状況を肌で感じ、社会の課題の解消に役立ったという実体験を通じて、学習効果を高めている。

この取り組みは信仰の根源となる仏像を「撮影」(3D計測)し、「造像」(3Dプリンターによる出力)し、さらにそこに固有の歴史性を「投影」することで、過疎化・高齢化に直面する地域における信仰の場の維持と、文化財(仏像)の保存を両立させるものである。仏像の新たな撮影手法は、新たな仏像造像の手法にも、新たな文化財保存の手法にもつながりうるといえるが、あくまで手段と目的を逆転させず、そして「みんな(=公共)で守る」ことの実践となっていることに意味があるのではないかと考えている。



図5 有田川町下湯川観音堂への奉納のようす(平成29年7月28日)

付記

シンポジウムにおいて、以上の内容について事例紹介として報告し、参加者とのディスカッションを行ったところ、本事例について関心を持っていただいたティム・グラフ氏（本誌報告2、参照）から、「お身代わり仏像」の製作と奉納についてのドキュメンタリー撮影の申し出をただちにいただいた。その時点で令和3年度事業としての複製製作は、高校生によるデータ計測や出力に関しては終了していたが、着色の仕上げ作業及び、和歌山県高野町の大滝丹生神社への奉納事業が残されていたので、調整の上、3月18日、19日の両日に取材と撮影を行っていただいた。撮影・編集されたコンテンツは、以下の通り YouTube にて公開されている。ぜひご照覧いただきたい。

- ・「バリアフリー仏教？ 3Dプリンターの最新技術で仏像のレプリカを作る事！」

https://www.youtube.com/watch?v=_T1fVQtdNMA&t=185s

- ・「仏像・神像盗難と防止」

https://www.youtube.com/watch?v=Y8WO_EwxjD8

参考文献

- 大河内智之「ロビー展「仮面の世界へご招待」がもたらしたもの—さわって学ぶ展示の重要性—」（広瀬浩二郎編『さわって楽しむ博物館—ユニバーサル・ミュージアムの可能性—』青弓社、2012年）
- 大河内智之「さわられる展示と博物館のユニバーサルデザイン」（『文化庁月報』529<WEB版>、2012年）
URL: https://www.bunka.go.jp/pr/publish/bunkachou_geppou/2012_10/series_04/series_04.html
- 大河内智之「さわられるレプリカとさわって読む図録—展示のユニバーサルデザイン—」（『博物館研究』49巻3号、2014年）
- 大河内智之「仏像を守る 和歌山県の事例から考える防犯対策」（『大法輪』85(7)～85(9)、2018年）
- 大河内智之「博物館機能を活用した仏像盗難被害防止対策について—展覧会開催と「お身代わり仏像」による地域文化の保全活動—」（『和歌山県立博物館研究紀要』25、2019年）
- 大河内智之「さわられる文化財レプリカとお身代わり仏像—3Dデータで歴史と信仰の継承を支える—」（国立歴史民俗博物館監修・後藤真・橋本雄太編『歴史情報学の教科書 歴史のデータが世界をひらく』文学通信、2019年）
- 大河内智之「博物館がつなぎ公共で支える地域資料—仏像盗難をめぐる問題を通じて—」（小川義和・五月女賢司編『発信する博物館—持続可能な社会に向けて—』ジダイ社、2021年）